

平成 21 年度 環境活動レポート

株式会社 サンアール

1. 会社概要

- ア). 会社名 株式会社 サンアール
- イ). 所在地 北海道函館市滝沢町 98 番地
- ウ). 代表者 代表取締役 時田 茂
- エ). 事業内容 産業廃棄物の中間処理
- カ). 事業の範囲

破砕(木くず、ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くず、紙くず)
 選別(木くず、ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くず、紙くず、繊維くず、
 金属くず、廃プラスチック類、ゴムくず、がれき類)
 RDF の製造(木くず、廃プラスチック類、紙くず、繊維くず、ゴムくず)
 圧縮(廃プラスチック類)
 減容(廃プラスチック類)

キ). 環境保全関係の担当者連絡先

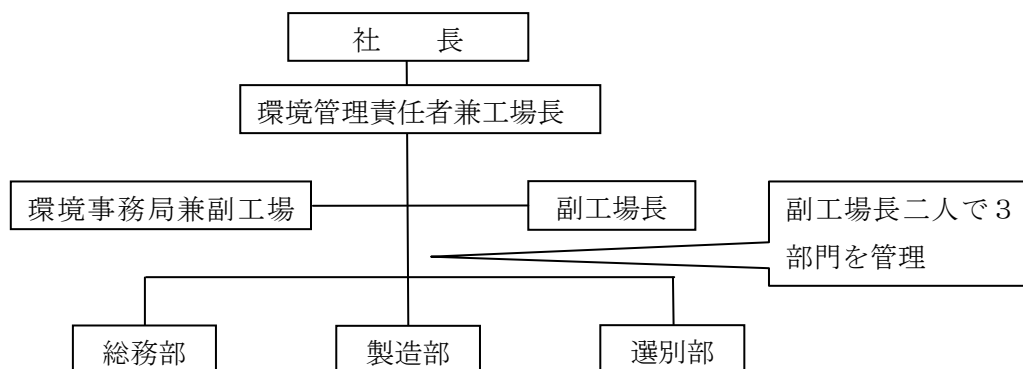
担当者 副工場長 時田 真一
 Tel 0138-33-1505
 Fax 0138-33-1507
 ホームページ http://www16.ocn.ne.jp/~rrr_3r/
 E-mail rrr_3r@vanilla.ocn.ne.jp

ク). 事業の規模

活動規模	単位	平成 18 年度	平成 19 年度	平成 20 年度	平成 21 年度
処 理 量	t	17967	16663	16904	17557
売 上 高	百万円	338百万円	330百万円	315百万円	318百万
従 業 員	人	35 人	35 人	35 人	35 人
床 面 積	m ²	13,300 m ²	13,300 m ²	13,300 m ²	13,300 m ²

ケ). 実施体制

組織図



環 境 方 針

株式会社サンアールは、産業廃棄物を中間処理するにあたって、次に示す誓約をすることによって、環境負荷の低減、そして循環社会の構築に向けて、環境への取組を実施します。

1. 地球環境保護への取組を、当社経営課題のうちの一つとして位置づけます。
2. 中間処理業務における最終処分廃棄物を減らし、リサイクル率の向上を目指します。
3. 当社業務における廃棄物を抑制します。
4. 当社事業活動に伴う法規制の遵守を徹底します。
5. 当社事業活動に伴う環境負荷の低減を目指します。
 - (ア) 電気使用量の削減
 - (イ) 水使用量の削減
 - (ウ) 燃料使用量の削減
 - (エ) 紙使用量の削減
 - (オ) グリーン購入の推進
6. 上記環境方針に沿った活動を行う為、月例会議等で全従業員に周知徹底し、全従業員で取り組んでいきます。

平成 18年4月1日

株式会社 サンアール

代表取締役 時田 茂 印

2. 投入エネルギー量

	単位	平成 17 年度	平成 18 年度	平成 19 年度	平成 20 年度	平成 21 年度
購入電力	MJ	1760975	7453902	10359129	12786982	13455697
化石燃料	MJ	2623715	2608588	3302969	2606148	2606148
新エネルギー	MJ	0	0	0	0	0
その他	MJ	0	0	0	0	0

4. 水資源投入量

	単位	平成 17 年度	平成 18 年度	平成 19 年度	平成 20 年度	平成 21 年度
上水	m ³	439	929	1135	960	715
工業用水	m ³	0	0	0	0	0
地下水	m ³	0	0	0	0	0

5. 温室効果ガス排出量

	単位	平成 17 年度	平成 18 年度	平成 19 年度	平成 20 年度	平成 21 年度
二酸化炭素	Kg-CO ₂	247334	465456	623597	671597	782816

6. 受託した廃棄物の処理量

	単位	平成 17 年度	平成 18 年度	平成 19 年度	平成 20 年度	平成 21 年度
収集運搬量	t	0	0	0	0	0
中間処理量	t	14195	17563	15243	15129	16225
うち再資源化等量	t	4701	2764	2980	3927	982
最終処分量	t	0	0	0	0	0
中間処理後の産廃の処分量	t	9485	14711	11964	10970	15046
うち再資源化等量	t	3046	9096	7266	5961	9847

7. 廃棄物等総排出量

	単位	平成 17 年度	平成 18 年度	平成 19 年度	平成 20 年度	平成 21 年度
再使用	t	0	0	0	0	0
再生利用	t	1705	2514	2026	1344	1127
熱回収	t	6147	9347	8282	8544	9703
単純焼却	t	16	7	7	4	8
その他	t	0	0	0	0	0

8. 廃棄物最終処分量

	単位	平成 17 年度	平成 18 年度	平成 19 年度	平成 20 年度	平成 21 年度
最終処分量	t	6439	5615	4698	5009	5199

9. リサイクル率

	単位	平成 17 年度	平成 18 年度	平成 19 年度	平成 20 年度	平成 21 年度
サーマルリサイクル	%	44.7	53.1	49.8	52.3	48.7
マテリアルリサイクル	%	7.7	15.3	22.4	17.1	19.1
最終処分	%	48	32	28	31	32

現状は約 7 割がリサイクルされています。

サーマルリサイクルの中には、木チップ、RPF などが含まれます。

マテリアルリサイクルの中には、金属、発泡スチロール、ダンボール、がれき類などが含まれます。

10. 環境への取組の自己チェックリスト (平成 21 年 6 月)

1. 事業活動動へのインプットに関する項目

点数／満点

- | | |
|-----------------------|---------|
| 1) 省エネルギー、新エネルギー使用の拡大 | 12 / 24 |
| 2) 省資源、グリーン購入 | 7 / 18 |
| 3) 節水、水の効率的利用 | 5 / 6 |

2. 事業活動からのアウトプットに関する項目

点数／満点

- | | |
|-------------------------------------|---------|
| 1) 二酸化炭素の排出抑制、大気汚染等の防止 | 27 / 28 |
| 2) 化学物質対策 | 12 / 12 |
| 3) 受託した産業廃棄物の処理における環境配慮 | 51 / 72 |
| 4) 事務所等における一般廃棄物の排出抑制
リサイクル、適正処理 | 28 / 46 |
| 5) 排水処理 | 4 / 6 |
| 6) 収集・運搬に伴う環境負荷の低減 | 8 / 14 |

3. 環境経営システムに関わる項目

点数／満点

- | | |
|----------------------|---------|
| 1) 環境保全のための仕組み・体制の整備 | 17 / 32 |
| 2) 環境教育、環境保全活動の推奨等 | 2 / 10 |
| 3) 情報提供、社会貢献、地域の環境保全 | 4 / 8 |
| 4) 環境ビジネス、技術開発 | 6 / 6 |
| 5) 国際協力及び海外事業における配慮 | 0 / 0 |

総合結果

183 / 282

11. 主要な環境活動計画の内容

(1) 選別工程で使用する燃料の削減

- ・選別工程の見直しをする。
- ・重機の使い方の見直しをする。
- ・重機車両等の無駄なアイドリングを禁止する。
- ・急発進、急加速、空ふかしを禁止する。
- ・使用量を3ヶ月に1度確認し、見直しする。

(2) 中間処理工程で排出する最終処分量の削減

- ・中間処理工程の選別精度は保たれているか。
- ・中間処理工程の見直しする。
- ・排出量を3ヶ月に1度、確認する。

(3) 工場内で使用する電気使用量の削減

- ・お昼や休憩時間の消灯、設備の電源を消す。
- ・30分以上作業がない場合は設備の電源を消す。
- ・破碎工程の作業集約化で短時間化を図る。
- ・選別ライン工程の作業の効率化をする
- ・破碎機等の機械類の空運転を防止する。
- ・無駄のない作業スケジュールの作成をする。
- ・デマンドコンロトーラの導入による、工場全体の電気使用量の把握をする。

(4) 製造工程で使用する燃料の削減

- ・お昼や休憩時間など、無駄のないように稼働させる。
- ・作業効率が落ちないように工夫する。

(5) 事務所で使用する用紙の使用量の削減

- ・裏紙などを再利用する。
- ・ミスコピー・ミスプリントなどをなくす。

(6) 工場内の上水の使用量の削減

- ・重機等の洗車は必要最低減にする。
- ・走行型粉塵集塵機の導入により、散水作業を削減する。
- ・粉塵防止の散水作業は効率よく行う。

13. 環境目標と実績

	単位	平成19年度 (目標)	平成20年度 (実績)	平成21年度 (目標)	平成21年度 (実績)	評価
① 選別工程で 使用する燃料の削減	L	61,780	63,826 (2.5%増)	60,544 (2%減)	77,073 (24.7%増)	×
② 中間処理工程で 排出する最終処分量 の削減	T	4,628	5,010 (13.9%増)	4,397 (5%増)	5,200 (12.3%増)	×
③ 工場内で使用する 電気使用量の削減	Kwh	1,144,080	1,297,812 (14%増)	1,138,376 (5%増)	1,368,840 (19.6%増)	×
③ 製造工程で 使用する燃料の削減	L	14,576	19,431 (27%増)	14,138 (3%減)	18,567 (27.3%増)	×
④ 事務所で 使用される用紙の削減	枚	68,000	6,300 (91%減)	62,560 (8%減)	25,500 (62.5%減)	○
⑤ 全部門で 使用される上水の削減	L	1,135	960 (12%減)	1,045 (8%減)	715 (38%減)	○

14. 考察

① 選別工程で使用する燃料の削減

- ・ 活動計画の実施の結果、削減に失敗した。

選別処理工程の変更・追加などが原因

目標設定値に無理が生じている為、データを取り直し、目標値の再設定をする

② 中間処理工程で排出する最終処分量の削減

- ・ 活動計画の実施の結果、削減に失敗した。

選別処理工程の変更により、最終処分する品目の増加が原因

目標設定値に無理が生じている為、データを取り直し、目標値の再設定をする

③ 工場内で使用する電気使用量の削減

- ・ 活動計画の実施の結果、削減に失敗した。

機械の故障等、RDF 工場稼働時間の増加による、電気使用量の増加が原因

目標設定値に無理が生じている為、データを取り直し、目標値の再設定をする

④ 製造工程で使用する燃料の削減

- ・ 活動計画の実施の結果、削減には失敗した。

搬入量に対する燃料使用量で燃料効率を計算すると、28.4L/m³ (H20) と比べて 27.1L/m³ (H21) と 0.7L 向上している 目標の設定方法の見直しが必要 目標設定値に無理が生じている為、データを取り直し、目標値の再設定をする

⑤ 事務所で使用する用紙の削減

- ・ 活動計画の実施の結果、削減には成功した。

管理体制を在庫管理の方法に変更し、月の使用枚数を管理するように変更した。今年度を基準に目標を再設定する

⑥ 全部門で使用する水量の削減

- ・ 活動計画の実施の結果、削減には成功した。

このまま活動計画を実施する。

15. 環境関連法規への違反、起訴等の有無

当処分場に適用される環境関連法規等への違反はありません。

なお、関係当局より違反等の指摘は、過去3年間1件もありません。

16. 優良性評価制度の情報公開について

以下、北海道産業廃棄物協会のHP上にて公開しております

<http://www.sanpai.or.jp/search/displ.php?co=C000002&b=0>